



SSKU

脳損傷・高次脳機能障害

サークルエコー

Vol. 45 (2011年9月)



福島の子どもたちとあそぼう (関連 P6)

サークルエコーは

事故や病気によって脳に損傷を受けると、新しいことが覚えにくくなったり、意欲が低下したり、感情のコントロールが難しくなるなどのため、社会生活の様々な場面で問題が生じることがあります。

このような後遺症を高次脳機能障害といいます。

目に見えにくい障害のため、社会の理解を得にくいこと、したがって現行の福祉制度を利用することが難しい点が大きな問題となっています。

サークルエコーは、高次脳機能障害をとりまく問題の中で、特に、日常生活にも援助が必要な人たちの問題に取り組んでいます。

ホームページ <http://www.circle-echo.com/>

(会報はカラーで見られます)

目次

- ・特集 「脳損傷/高次脳機能障害者支援」
各国の取り組み 2
- ・続/東日本大震災 6
- ・メーリングリスト 6
- ・心のファイルから 8
- ・動向 10
- ・活動報告 11

特集

「脳損傷/高次脳機能障害者支援」各国の取り組み

2006年から2010年にかけて4つの国の脳損傷関連機関を訪問する機会がありました。*
 6月19日のNPO法人東京高次脳機能障害協議会(TKK)の総会に続くセミナーで、それらの国の活動や印象に残ったことなどをご報告しました。その一部をご紹介します。

田辺和子

脳損傷団体の設立と関連の法/事業等	
1979	(イギリス) ロンドンに「ヘッドウェイ」(2001,BIAへ改称)
1980	オーストラリアに「ヘッドウェイ」 アメリカに「全米脳損傷協会(BIAUSA)」
1981	(ニュージーランド) オークランドに「ヘッドウェイ」(1993,BIAへ改称)
1984	(オーストラリア) キーンズランドに「ヘッドウェイ」(1994,BIAへ改称)
1988	(スウェーデン)ストックホルムに「ヤーンクラフト」
1993	国際脳損傷協会(IBIA)アメリカ・バージニアに本部
1994	特別援護法に脳障害による知的機能低下の人(スウェーデン)
1995	頭部外傷や病気による後遺症をもつ若者と家族の会(大阪)
1996	脳外傷法(アメリカ)
1997	脳外傷友の会(名古屋・神奈川)
1998	高次脳機能障害者と家族の会、サークルエコー(東京)
1999	脳外傷友の会(札幌)
2000	日本脳外傷友の会(2005年NPO法人化)
2001	～2005、高次脳機能障害支援モデル事業(日本/厚労省)
2003	東京高次脳機能障害協議会(2007年NPO法人化)
2006	～現、高次脳機能障害支援普及事業(日本/厚労省)

各国の脳損傷関連団体の設立や、法や事業が開始された年を表にまとめました。どの国も、最初は数家族が声をあげ、小さなグループを立ち上げ、啓発やロビー活動などを通して社会的な理解や行政の支援を広げつつ、組織も成長していくという過程を辿っていました。表は、ごく一部の情報ですが、日本の家族たちが動きはじめるのは、欧米の先進的なところより15～20年後のことだと分かります。

一方、障害者への福祉は、70年代までは重度の人たちについては施設ケアが中心でしたが、81年の「国際障害者年」を契機に、ノーマライゼーションの理念とともに地域社会に基盤をおいた制度やサービスが整えられていきました。後発の

脳損傷者支援もその流れに合流して行きました。多少の時間のズレはありますが、これはどの国も共通の流れでした。

オーストラリア (2006/2)

オーストラリアでは、1991年に連邦政府と州政府との間で障害者協定が結ばれ、連邦政府は所得保障や雇用就労に、各州は住まいや地域生活に責任をもつことになりました。権利擁護は連邦と州の共同責任とされました。

1984年に東岸のクィーンズランド州ブリスベンで脳損傷者の家族たちが立ち上げた「ヘッドウェイ」は10年後にはクィーンズランド脳損傷協会(BIAQ)としてパワーアップ、州政府による「脳損傷者アウトリーチ型支援(ABIOS アビオス)」の設立(1997年)などにもつながっていきました。ABIOSは専門のスタッフが脳損傷者の家庭に出向いて、相談/支援を提供するというもの。車や電車に乗って家庭に出向くことにより、地域の交通状況、住まいや環境、当事者の周りにどういう人々がいるかが分かり、そこでは何を利用し、どういう活動ができるか適切なアドバイスができるという利点があります。地域住民や施設職員などに対しても、脳損傷の講習会を開くなど、支援者を広げるための働きかけをします。つまり、当事者の身近なところに使える資源をみつけ、支援する人を探し、周囲の人々の間に脳損傷への理解を広げるなど、脳損傷を負った人のための地域生活を支える環境をつくるのがABIOSの仕事です。



BIAQのスタッフと利用者の青年

脳損傷協会が長年にわたり支援している一人の青年に会いました。協会は、青年への支援などを通して、脳損傷者の支援の中でもっとも難しいとされる行動障害への対応を学び、それを他の支援業者に広めることを主要事業のひとつとする一方、行政には、「行動障害のある脳損傷者は放置しておくよりも支援の方が社会にとって有益かつ経済的だ」とデータをあげて説得し、支援のための事業費を獲得することに成功しました。民間の脳損傷協会も、行政が運営する ABIOS もこの問題には特に力をいれ効果をあげているのだそうです。

一方、就労には至っていない青年たちが、個別に家事支援や外出支援を受けているものの、集まって一緒に活動する場があまりないように思い、協会代表のディッキンソン氏に尋ねると「確かにそういう問題があります。孤独に陥ると、薬物などに手を出したりしがち。これから対応策を作っていくかなければなりません」と、未整備な点も率直に教えていただきました。

ニュージーランド (2007/8)

日本の4分の3ほどの国土に400万人の人口、雄大な自然に恵まれた美しい国です。障害者権利条約を推進してきたこの国は、一方では、90年代には行財政改革を成功させたことでも知られています。このことで脳損傷者支援が厳しさにさらされることはなかったのでしょうか。その疑問に答えるのが、この国が誇る事故補償制度 (ACC) です。



スチュワートセンター、休憩時間のリビング

1974年に制定されたACCは、①事故の予防 ②リハビリテーション ③補償を3つの柱とした制度です。その財源は、雇用者・自営業者からの税のほか、国民には、事故の際の民事訴訟の権利を放棄させ、損害賠償にかかる費用と労力をなくしました。脳損傷のことが明らかになっていくのに伴い、ACCに脳損傷者支援が占める割合は飛躍的に大きくなっていったそうです。

1990年代にオークランドの脳損傷協会 (BIAA) が設立し、今では独立したリハセンターとなった4つのスチュワートセンターを訪問しました。大きめの一般の住宅をそのまま使っている各地のセンターには、それぞれ20人くらいが登録され、ACCの支給量に応じて通所しているそうです。工作など個別に支援を受けながら取り組んでいる利用者の方々は、日常生活レベルの支援が必要な人が多いようでした。また、太平洋系の方や先住民など多様な人たちが利用していました。この方たちの生活様式から脳損傷の人が多く出ていることなど、多民族国家ニュージーランドの脳損傷者の特徴も伺いました。病院も脳損傷協会も「家族ぐるみの支援」を強調していました。

NPOが運営する小規模のリハセンターが各地にありました。ACCの認定を受けた脳損傷者の確保が運営にもつながるので、リハセンター同士が上質の支援を競い合い、レベルの高いリハビリが行われていると感じました。事故の後遺症のために必要だと査定されると、パーソナルアシスタントやグループホームの費用などの費用もすべてACCにより支給されるそうです。反面、脳損傷のことが分かるにつれ、そのための支出がうなぎ上りとなってきたので、ACCは交通事故やスポーツ事故などの予防や啓発にも力をいれるようになりました。その結果、事故が減り、予算削減にかなりの効果が出ているということでした。事故以外で脳損傷になった人 (脳卒中、低酸素脳症など) の費用は保健省から支給されるそうです。

スウェーデン (2009/5)

1980年代、施設の閉鎖が進められていくのに伴い、地域に戻ってくる障害者の生活を支援するための法律が作られていきました。中でも1994年に制定された重度の機能障害者のための特別援護法 (LSS) は、脳損傷者にとって画期的なものだと脳損傷協会「ヤークラフト」のメンバーたちは語りました。



理事たちのほとんどは脳損傷の当事者

このサービスの査定がされると必要に応じて、グループホームの入居、パーソナルアシスタント、デイケアへの通所等々のサービスが使えます。特に脳損傷者へのパーソナルアシスタントの重要性について口を揃えて語られました。

視察団が、日本のヘルパー制度の話をする、「パーソナルアシスタントの仕事は、障害によってでき

なくなったことをその人の希望にあわせて一緒にやること。脳の障害に画一的なメニューなどあるはずが

ない」と大きく手をふって反論されました。しかし、脳損傷についての行政の理解はまだまだで、必要なすべてにLSSが適用されるように活動することが協会の使命だと考えているということでした。

働くことについては、受傷前の80%の仕事しかできなくても企業は解雇することはできない。80%の能力であれば、その分の給料は企業が払い、障害のためにできなくなった20%については国が払う、という説明を受けました。一方、一般の会社への復帰が無理な人にはデイケアがあります。「そこに通うことは、働くことと同等の権利なのです」とセンターの責任者は語りました。

日本では一人前の人間は、食べるために働く義務があると考えられています。障害を持てば、「義務」は「免除」されるのでしょうか。しかし、それが「権利」であると考えれば、「免除」などと言って放置することはできない。制度以前の、制度を作っている国民性というものを考えずにはられませんでした。

スウェーデンでもうひとつ印象的だったのは、我々を迎えてくれたヤークラフトの理事たちが脳損傷の当事者だったこと。スタッフは、その理事たちを支えて働くことが仕事というわけで、主体はあくまで当事者たち。脳損傷の当事者主体とはどういうものか、その具体化された姿を見せてもらったと思いました。

アメリカ (2010/6)

アメリカでは、1980年に全米脳損傷協会が設立され、各州に脳損傷協会があります。友人のいるノースカロライナ州ケーリー市に滞在し、隣のローリー市にあるノースカロライナ脳損傷協会(BIANC)を訪問しました。協会はモールの2階、クリニックや美容院などが並ぶ廊下の一番奥にありました。

BIANCのHPには、「全米には、少なくとも530万人の脳外傷者がいる。23秒ごとに脳外傷者が生まれ、来年は140万人が脳外傷を負うと予想されている。

ノースカロライナ州には、18万人の脳損傷者がいるが、戦争での受傷者が多く、負傷兵士の多くは家族のもとで生活している」と書かれていました。

協会で、脳損傷者支援の現状、啓発活動、スタッフや利用者のことなどについてお聞きしたあと、数日にわたり、2か所のラーニングサービス、ケーリー支部の例会、就労支援センター、失語症の映画と交流の会などを見学しました。

「ラーニングサービス」は、リハビリテーション付きのグループホームといった感じのもの。脳損傷の方々、十数名が日常生活の支援を受けながら、作業療法士、言語聴覚士、カウンセラー等と個別に必要なリハビリにも取り組んでいる様子を見せていただきました。支援スタッフと地域活動に出かけている人もいました。薄暗くした個室に案内されると、重い脳損傷の若者が2名横たわっていました。案内の人は「ここに来て、経管栄養から口で食べる方に切り替えられたのよ」と言いました。そんな重度の



広い敷地に美しい建物・ラーニングサービス

方も、アットホームな場所でリハビリを受けられるのかと感動しました。しかし、その人たちがイラクからの帰還兵だと聞いて、また別の思いに打たれました。

費用については、「一人ひとりリハビリの内容が違うので、一概には言えないが、平均すれば、1日、500ドル(約4万円)ほど」と聞いて、思わず「えっ?」と聞き返しました。したがって、国や保険などからお金が出るような人たちでなければ利用できないというのが現実のようです。

短い滞在中にも、折々に格差社会アメリカの現実を垣間見る思いもしましたが、そんな中、脳損傷をもつ近隣の人たちが気軽に集まり、次のステップをめざして活動できる場として安価な会費で利用できるクラブハウスの設立を準備中であること、そのため、スタッフは先進のバージニア州に何度も研修に行ったことなどをお聞きしました。半年後に届いた、Gatewayクラブハウスのオープニングを知らせるニューズレターには、場を得た利用者たちのリラックスした姿が写っていました。

おわりに

4つの国の脳損傷者支援 — 多分、その国の代表的な — の現場を訪ねて感じたことは、医学的なりハビリテーションは、日本も含めほとんど差はなく、症状の理解、社会的な問題などについても、共通の課題が洗い出されているということでした。一方、それぞれの国で心に残る場面にも出会いました。

オーストラリアでは、BIAQのプロフェッショナルな戦略、ニュージーランドでは、ACCの補償制度や地域の小規模なりハセンター、スウェーデンでは当事者理事たちの活躍やパーソナルアシスタント、アメリカでは地域に根づくボランティアの活動などが印象的でした。

日本では、当事者/家族会の立ち上げがこれらの国より大きく遅れたのは表(p2)のとおりですが、あらためて日本の現状を見渡せば、モデル事業から普及事業と続く高次脳機能障害者支援事業は、日本独特の推進力で急速に全国をカバーしつつあり、これはこの国の真面目さの力なのかなあという感慨も持ちました。

※オーストラリア、ニュージーランドは、NPO法人全国障害者生活支援研究会、スウェーデンはNPO法人東京高次脳機能障害協議会の一員として参加したものです。それぞれ報告書が出ています。アメリカでの見学(TKK後援)は現地在住のサークルエコー賛助会員のゴティ英子さん、山下富美子さんご夫妻に大変お世話になりました。



東京パイロットクラブ 60周年

6月25日、東京パイロットクラブの60周年記念式典が港区の帝国ホテルで開かれました。当クラブは、戦後まもない1951年に発足、今日までボランティア活動を続けてこられました。サークルエコーは、2002年暮れの定例会で高次脳機能障害の解説のためにお呼びいただいたのがおつきあいの始まりで、翌年6月、四谷区民ホールでの「脳を守ろう」キャンペーンのシンポジウムではパネリストのひとりとして、サークルエコー会員の特徵などについてお話しする機会をいただきました。次の年から、エコーの会員やサポーターたちは毎年、「全国統一パイロットウォーク」に参加、都内各所をクラブの皆さんとご一緒に歩いています。



東京パイロットクラブの寄付金贈呈式

60周年のこの日は、全国のクラブの代表など200名の参列者が会場を埋め、さわやか財団の堀田力氏の「尊厳を支える福祉に向けて」の講演、エコーを含む6団体への寄付金の贈呈式などがあり、祝宴は聖路加病院の日野原重明先生の乾杯の音頭ではじまりました。吹奏楽やソプラノ独唱なども楽しませていただきました。(田辺)

「続・東日本大震災」

6月7日から4日間、遠野まごころネットの被災地ボランティアにはいったエコーのサポーター福島誠さんが、現地の手作りニューズレターをもじって、8ページのレポート「よりそう Side by Side」にまとめ、被災地の状況、地元の方とのふれあいの状況を届けてくださいました。以下は、福島さんのレポートのほんの少しのピックアップ。

★ 福島誠 (賛助会員、川崎市)

「起床、5時30分。昨日の釜石・箱崎帖での過激な活動と、久しぶりのノンアルコールのおかげで(?) 快眠・快食・快便で朝を迎えた。寝袋で、体育館での夜もなかなかいける。」

「今日の活動予定は、①釜石・箱崎帖の民家のガレキ撤去・・・40人 ②陸前高田・米崎町の用水路ガレキ撤去・・・110人 ③大槌町・小槌地区の民家のガレキ撤去・・・150人。300余名のボランティアがこうして毎日現場へと向かう」

「モンゴル、ドイツ、フィリピン、台湾、アメリカなどからもボランティアに参加していて国際化を感じさせる。そしてまた、2回、3回と遠野へやってくる方の多いのにも、ひと月、ふた月と連続して活動される方の多いのにも感心する」

★ゴティ 英子 (賛助会員、米・ノースカロライナ在住)

7月、福島県南相馬市の原町第二中学校避難所で、被災地の方々と過ごしました。南相馬市には全部で5つの避難所があり、仮設住宅にいつ、みんなが移れるのかは分からないそうです。避難所にいる間に、スカイプでノースカロライナとつなぎ、当地で立ち上げた東日本大震災支援の「プロジェクト KOKORO」の寄金で、この避難所の3階に10畳のたたみの部屋「KOKORO シェルター」を寄付することにしました。7月末に完成です。シェルターは、・医師の診療の場 ・皆のくつろぎの場 ・子どもたちの遊び場、として利用されることになりました。仮設住宅のそばにコミュニティセンターができると、そちらに移すことになっています。

アメリカに帰ってくると、あっという間に日常の生活にもまれて、日本が遠くなってしまうのですが、今回は大丈夫。避難所で作ったyoutubeの画像を見ながら、いつでも避難所でのボランティア生活にもどれる準備をしています。避難所のみんなが懐かしいな。

<http://www.youtube.com/watch?v=BfCFeFnpyg>

メーリングリスト

この欄では会員間のメーリングリストやメール、お便りなどを紹介しています。

この8月に「川崎市民の会」の主催で、放射能を恐れて屋内で遊ぶことが多かった福島の子どもたちに、大空の下でおおいに楽しんでもらおうと川崎市民の募金により『川崎サマースクール』が開催されました。市内に住んでいる福島先生から「ヨシもボランティアとして参加したら」と誘われ、ヨシは、先生のサポートを受けながらサマースクールに3日間参加。私も急遽、送迎ボランティアとして参加しました。



放射能が心配で、外に出るときは、いまでもマスクと長袖を着用している人もいるとのことでした。洗濯物も家の中に干しているそうです。「プールが壊れてしまったので、子どもたちも震災以来、はじめてプールに入りました」と、お母さん達から伺いました。子どもたちは、プールで泳いだり水遊びをしたり、外で泥んこになったり、本当に楽しそうでした。私もこの夏、貴重な体験をさせていただきました。(西田宏美)

西田さん、夏レポート拝見しました。猛暑にも負けず頑張っている様子が分かり、嬉しかったです。さて、我が家の夏は体が2つ欲しいと思う毎日です。夏ばても出来ません！

《その1》高橋代表が“フレンズ10周年講演会”のお誘いメールを流して下さいましたがその準備。
《その2》相棒が7月4日に脳出血でダウン！幸い軽くてすみ、高次脳機能障害は残りませんでした。右半身が不自由になり、現在は回復期リハビリ病院で訓練中です。毎日、病院通いをしており、体2つ欲しい原因です。毎日行かなければ良いと思うでしょ？私もそうしたいのですが・・・

娘の精神安定剤のために毎日通っています。主人に悪態のつき放題をしていたのに、倒れてからは「今日はお父さんの所に行くの？」と聞いてきます。「行かない」とはいえない状況です。

もう一つ、主人の倒れた原因を自分の悪態が原因では？と私に聞いてきたのです。それを払拭するためにも見舞いは欠かせないのです。

《その3》娘の脳代行。皆さんも同じでしょうが、毎日、1年365日、慣れてはいるけど、暑さと忙しさにイライラ！対策として、この夏はヘルパーさんの支援を倍増し、自分の使える時間を捻出しています。(相棒のありがたさを感じております)娘は夏ばて気味ですが、精神的には落ち着いており穏やかな日々を過ごしています。ヘルパーさんとの活動も楽しめるようになっています。今日はヘルパーさんと買い物に行っております。ズボンを買う、CDのレンタル、昼食を外です。この一つでも出来れば良いよ！と言って、外出させました。さて、どの程度外出がもつでしょうか？(楽しみでも有り、不安でもあり)今年の夏は、こんな具合に過ぎて行っております。最後に、「サークル・フレンズ」設立10周年記念講演会に是非お越し下さい。お待ちしております。(豊田幸子)

豊田様、メール拝見しました。暑い中、ご主人が倒れられ大事に至らなかったとはいえ普段なんともなく使っていたものが、使えなくなるのはとても大変な事と思います。本人がいちばん、でもまだまだリハビリの効果は十分出ると思いますので頑張るようお伝えください。私の母が、心筋梗塞から脳梗塞を起こし、左麻痺になってしまいました。89歳という年齢から多くの期待は出来ませんが、自立出来る位までは出来て欲しいと思っています。豊田さんも、10周年に向けて気をつけてお過ごしください。9月にお会い出来るの楽しみにしています。(田川三枝子)

豊田さん、今朝程は、ご丁寧に☎を賜り恐縮致して居ります。この度の「サークル・フレンズ」さまの”設立10周年記念”開催に際してはエコーからも、多くのメンバーが参加させて頂きます。よろしくお願い致します。私は、風邪が元でイマイチ体調が整わず、残念ながら同行に至りませんが、そのうちこっそり伺わせて頂きます。ご主人が、一日も早く回復されるようお祈り致します。豊田さんご自身も、頑張り過ぎない？ことを、切に願うものです。身体を壊したら元も子も有りませんので。「10周年記念行事」の成功を心からお祈りさせて頂きます。(今仲芳昭)

豊田様、お便り拝見しました。まだまだ暑い日がつづくようですね。私は暑いのは比較的好きな方です。冷たいものが美味しいので。ツネヨの方は以前から暑いのは苦手、普段でもよく寝るのに、体がだるいのか夏はさらによく寝ています。

ご主人もリハビリに頑張っているご様子、カオちゃんもお父さんを心配している、ご家族の良き絆を感じます。(高橋俊夫)

心のファイルから

近況

調布市 井上聖子

息子は2年前の小学4年の時、海で溺れ、約10~15分の心肺停止の後蘇生、低酸素脳症、高次脳機能障害の診断を受けた。半年間の入院の後、在学校の同じクラスに復学したが、当時はとても普通クラスで学べる状態ではなかった。



こうきは7月21日から学校の臨海学園で千葉の今井浜に行っていました。前日の大型台風の影響で海はたるが不通になるなどしていましたが、無事到着し海水浴、ボート、花火、きもだめし等イベントもたくさんあったようでとても楽しかったようです。ただ、本人から最近一部の女子が意地悪をしてくと聞いていたので心配していました。

こうきが近づくと露骨にいやがったり授業中も机をくっつけてくれないなどなど…

前々から聞いてはいたのですが本人が「気にしていない」と言っていたのでしばらくは様子を見ていたのですが、とうとう「学校に行きたくない」と言い出したのですぐに担任の先生に相談を試みたところ、その翌日学級で話し合いを持ってくださいました。

こうきから具体的な名前も聞いていたので本人達には先生が直接話をして今回のことをご両親に伝えるように言ってくださったようです。やはり行動が遅かったり、話し方も上手でなかったりするので成長の早い女子から見るとイライラするのもかもしれません。

男子同士は仲が良くらしく学級での話し合いの後はこちらを守ってくれようとしてくれるクラスメイトもいたとのこと、心強いです。

また担任の先生もこうきが一年生の時に新任で初めてクラスを持って以来六年間ずっと担任をしてくださっている方なので受傷前、受傷後のこうきのこともよく理解してくださっていて何かあるとすぐに対応してくださいます。担任の北岡先生がいらっしゃるなければこうきのここまでの回復はなかったと思えるほどのとても頼りになる先生です。

こうきも来年からは中学生になります。小さい時に受傷された方の体験談によると中学に入って勉強についていけなくなったなどの記述があったりします。まだまだ何が起こるかわかりませんが本人がいろいろなことを話してくれて、すぐに対応できるようにしていきたいと思います。

以下はこうき書いた臨海学園の日記と俳句です。

小学六年の文章としては？ですが、自分で考えて書けるようになったことはとても喜ばしいことです。

夏休みの日記

こうき

7月21日

今日は、花火がきれいだったです。浜べで遊んだので楽しかったです。

明日もきもだめしや海で遊ぶのが楽しみです。

「りん海の浜べで花火きれいだな」

7月22日

今日はスイカ割りなどをしました。おやつもおしるこを食べることもしました。きもだめしもしました。楽しかったです。

「スイカ割りみんなで割って楽しいな」

7月23日

今日は昼ご飯を食べて上ノ原小学校に帰りました。昼ご飯を食べた後に閉会式をしました。最後の昼ご飯は、カレーライスでした。美味しかったです。

「りん海で閉会式はさみしいな」



《ナノ祭りに参加して》

8月7日(日)「地域で共に生きるナノ(代表 谷口真知子氏)」主催の《ナノ祭り-Step V「おしゃべり図書館」》が三郷市文化会館で開催されました。

地域の方が大勢参加され文化会館の大ホールは舞台、客席が一体となって活気にあふれていました。スライドショー

から始まり、地域にある各チームのダンスや、ピアノ演奏、阿波踊り、うた、朗読など次から次へ舞台は色どり豊かな衣装、装置で変化していきました。そして客席の方も参加する場面もありました。障害のある方も体を動かし舞台上で楽しまれていました。舞台上で控えている方達は100名余。ここまでまとめられた谷口さんに脱帽です。

今年のテーマは「連なる」でした。

「トラブルに直面しても、以前一人ぼっちだと思ったことがありました。いまは少しずつ、意見を出し合い少しずつ遠慮し合い、少しずつもたれあい、関わりあえる仲間がいます。皆で思いを共有できるのは、いいものだな」と代表の言葉がありました。こうした催事を通じて地域の方々が結ばれている。最高です。

(高橋)



いろいろな場面に登場の 谷口さん



舞台の一場面

エコも舞台でごあいさつ

ナノ便り

平成23年3月19日(土)、「地域で共に生きるナノ」の新たな活動の場、ミルク(MILC)を仮オープンしました。かねてより、「地域で共に生きるナノ」では、今まで活動するなかで、地域の方々とのつながりを大切にしていきたい、いろいろな方々と共にいられる場所を作りたい、障害を持って役割、居場所を持っていきたいと考えてまいりました。その想いを形にしたのが、ミルクです。みんなで、いっしょに、学ぼう(ラーニング)、話そう(コミュニケーション)。そこから、MILC(ミルク)という名前がつけました。

- ・住所: 〒341-0044 三郷市戸ヶ崎 2-374 <http://nanojp.jimdo.com/ミルク-milc/>
- ・営業時間: 月~金 AM11:00~PM5:00 (土・日 講座&催し物)



ショーウインドー



ナノ祭りに出店



東日本大震災関連の
支援物資の仕分け作業

VIVID (ヴィヴィ) 主催の研修会

《高次脳機能障害のある方とのコミュニケーション・ツールとしてのコラージュ》に参加して

コラージュとは「のりで貼る」という意味があり、「コミュニケーション・ツールとしてのコラージュ」は、直訳すれば「意思や感情等の伝達を行う道具・手段として、挿絵や写真をのりで貼る」ということになるでしょうか。

手順としては切り抜きたい好きな写真や絵が入った雑誌やカタログ、チラシ等を持参し、自分で思いのままに切り抜いて台紙(B4の画用紙)に貼っていきます。作成後、グループ内で各自が「こういうものを作りました」と発表します。それに対して質問したり、感想を聞いたりします。言葉での表現が少ない人でもこうした作業で、その人がどんなものに興味を持っているのか、内面的な意識が分かったりして互いを知るきっかけになるようです。普段発動性の少ない高次脳機能障害者でも「何かをしている」という人間らしさを感じ、心の活性化にもなると思います。またこうしたノウハウはリハビリにも繋がると思うし、高次脳機能障害者のために大いに取り入れてもらいたいものです。

(高橋)



「欲しいもの、好きなものです」



「花を切り取りました」



会場風景

* VIVID(ヴィヴィ)は現在15団体が加盟している「NPO法人東京高次脳機能障害協議会(TKK)の加盟団体」の一つです。

動 向 脳損傷・高次脳機能障害

★ 7月6日、23年度、第1回「高次脳障害支援普及全国連絡協議会」が埼玉県所沢市の国立障害者リハビリテーションセンター(以下国リハ)で開催された。

各ブロックの発表では、患者の多様化への対応、スタッフの質的向上、マンパワー不足、社会復帰の困難、就労の持続、若年者の学校での支援のあり方などについての報告があった。

分担研究報告として、千葉リハ 太田令子氏から「青少年期の就学支援」、川崎医療福祉大学 種村純氏から「失語症者の社会参加」、徳島大学 白山靖彦氏から「高次脳機能障害支援コーディネーターのバーンアウト傾向に関する研究」の発表があった。

(高橋)

★ 7月29日、「障害者基本法」改正案(障害者基本法の一部を改正する法律)が可決、成立し、8月5日に公布された。国連の障害者権利条約批准に向けた国内法整備の一環で、政府は改正法の理念に基づき、2013年までに関連法案を国会提出する方針である。改正基本法では、障害者の権利擁護を強化する規定を追加した。「付帯決議」の7条には、「国は東日本大震災による障害者に係る被害の実態等を踏まえ、障害者の生命又は身体の安全の確保が図られるよう、障害者に対する支援体制の在り方について検討を加え、その結果に基づいて必要な措置を講ずること」が入れられた。

会員による講演・執筆・展示 etc.

★田辺 和子 講演「脳損傷・高次脳機能障害者支援＝各国の取り組み」於：港区赤坂区民センター (6/19)

★田川 三枝子 講演 「家族の体験」於：東京都社会福祉保険医療研修センター(目白区)

東京都心身障害者福祉センター主催の「高次脳機能障害者相談支援研修会」で、TKK所属の家族講師として、「高次脳機能障害者と家族の会」の菊池郁江氏と共に家族講師をつとめた。(7/13)

サークルエコー行事&会合報告

- 5/31 狛江市自立支援協議会・事業報告・・・狛江市役所 (田辺)*
- 6/1 会報作成作業・・・武蔵野市高橋宅(西田、高橋、田辺)
- 6/2 会報44号印刷・折り・・・武蔵野協働サロン(西田、高橋、今仲)
- 6/4 えこーたいむ(会報発送)・・・武蔵野市高橋宅(西田2、高橋2、田川2、廖)
- 6/4 講演会「知的障害者の意志決定支援(英2005意思決定～)菅富美枝 法政大」サポート研・・・港区(田辺)
- 6/13 東日本大震災支援チャリティ講演会「被災地ボランティア報告・ラオス現地報告」・・・(福島、西田3、田辺)
- 6/19 TKK理事会、総会・・・赤坂区民センター(田辺、高橋2)
- 6/22 「当事者&専門家として」関啓子氏＝土本亜理子氏の取材同行・・・三鷹市(田辺)
- 6/23 映画「原発切抜帖」「いま原子力発電は...」・・・岩波ホール(田辺)
- 6/25 えこーたいむ・・・武蔵野市高橋宅(西田2、高橋2、今仲)
- 6/25 東京パイロットクラブ設立60周年(講演会・式典・寄付金贈呈式)・・・帝国ホテル(田辺)
- 6/25 高次脳機能障害講演&シンポジウム in 横須賀・・・ヴェルクよこすか(田川)
- 7/3 狛江市障がい福祉計画改定のヒヤリング・・・狛江市役所(田辺)
- 7/6 高次脳機能障害支援全国協議会(傍聴)・・・国リハ(高橋)
- 7/7 映画「無常素描」・・・(交通安全DVD関係者)・・・渋谷・オーデトリウム(田辺、西田)
- 7/9 会報45編集会議・・・狛江市田辺宅(田辺2、西田2、高橋2、今仲)
- 7/13 高次脳機能障害者相談支援研修会・・・都社福医療研修センター・・・(田辺、田川)
- 7/13 TKK家族相談交流会・・・多摩障害者スポーツセンター(高橋)
- 7/16 狛江市福祉推進委員会障がい作業委員会(傍聴)・・・狛江市役所(田辺)
- 7/17 TKK要望書打ち合わせ 今井副理事長・・・狛江市田辺宅(田辺)
- 7/17 マリン横須賀・・・ゆんるり(田川)
- 7/20 TKK定例会世田谷ボランティアセンター(田辺、高橋2)
- 7/21 狛江市自立支援協議会定例会・・・狛江市役所(田辺)
- 7/23 損保ジャパンシンポジウム「社会福祉が捉える利用者像・東日本大震災を踏まえて」・・・半蔵門・TKK(田辺)
- 7/23 横浜ラポール見学・・・(西田2、高橋2)
- 7/29 川崎自立支援協議会勉強会(傍聴)・・・川崎生涯学習会館(武蔵小杉)・・・(田辺)
- 7/30 VIVID研修会「コミュニケーションツールとしてのコラージュ」・・・高田馬場(田辺、西田2、高橋2)
- 8/7 ナノ祭り・・・三郷市文化会館(田辺2、田辺ヶ/カ、谷口3、西田2、高橋2、山崎)
- 8/6.8.9 「福島の子供達とともに」ボランティア活動・・・川崎市(西田2、福島)
- 8/12 「高次脳機能障害者のつどい」打ち合わせ・・・マルシェ稲城(田辺)

* 田辺は、サークルエコーとして狛江市自立支援協議会委員の委嘱を受けています。

2011年9月～11月 活動予定

- サークル・フレンズ10周年<<瀬戸市>>・・・9/4
- えこーたいむ・・・9/24
- パイロットウォーク・・・10/2
- 合宿(大いに語ろう会)・・・10/15～16 下記参照
- 多摩エコー・・・随時
- ナノ<<三郷市>>・・・随時
- フレンズ<<瀬戸市>>・・・毎週月曜、火曜
土曜、第1・3金曜



7/23「横浜ラポール」にて。ヨシ君は相手に上手く合わせて返していました。

《今年の合宿地は横浜です》

前号で今年の合宿地の概況を「プレ合宿」としてお知らせしておりますが、日時・場所などは下記の通りです。

- ・日時：10月15日(土)～16日(日) 15日は13時集合 16日は10時過ぎ解散。
- ・場所：横浜あゆみ荘(障害者研修保養センター)
住所：〒224-0062 横浜市都筑区葛が谷2-3
合宿についての問合せ先：高橋 0422-51-4137 西田：045-962-6118
- ・交通：電車の場合：横浜市営地下鉄グリーンライン「都筑ふれあいの丘駅」下車 徒歩2分
車の場合：東名横浜青葉I.Cから7、8分。国道246号の信号「江田駅東」を東に入り3、4分



ご支援ありがとうございました。



2011年6月～8月までにご寄付、賛助会員費をお寄せ下さった方々です。(順不同、敬称略)

玉井 由紀	吉川 ひろみ	西田 勝	小枝 道子	田中 慶子	石井 紀子
坂本 智子	澤田 真知子	金原 美智子	志田 静	右田 洋子	金子 ひとみ
西川 安子	関 君子	小出 喜美枝	鶴田 成子	中澤 映子	稲垣 克巳
細川 端子	入江 清子	吉田 道子	廣山 寿江	清水 桂子	森 春夫
澤島 光洋	加藤 庸子	石渡 和実	伊藤 雄子	上山 睦恵	佐藤 明笑
山田 春美	黒沢 久子	伯耆 定代	荒川 千秋	本山 千恵子	田中 さだ子
平野 美香	柴崎 美穂	佐藤 チョ	ゴティ 英子	森 節子	坊傳 登美子
中島 久美子	山岸 すみ子	佐藤 孝子	万歳 登茂子	武居 光雄	繁野 玖美
柴崎 祐美	西 勝義	佐藤 節子	武田 智子	吉田 実	大沢 一男
和田 敏子	中川 信子	武田 大介	庄司 博	中島 香	
三池 CO と共闘の会	堺脳損傷協会	(株)青海社	ふらむ熊本		

☆ 東京パイロットクラブ様より 10万円のご寄付を頂きました。(P5に関連記事)

◎ 入会のご案内
「正会員」
入会金 1,000円
年会費 3,000円

◎今年度も賛助会費のご協力よろしくお願いたします。
年会費(4月～3月)1口 2,000円

郵便振替 口座記号番号 00180-0-546112 サークルエコー

編集後記

昨年の夏も暑かったですが今年の夏はそれ以上暑い日が続いていたように思います。温暖化のためなのか、地球の周期的な現象なのか知りたいものです。前者の場合はいずれ人類は滅亡? いや人間はその時その時、知恵をだし、工夫し、生存していくでしょう。 Takahashi

サークルエコー連絡先

田辺 和子	〒201-0013 東京都狛江市元和泉2-7-1	Tel/Fax:03-3430-8937
谷口眞知子(ナノ)	〒341-0044 埼玉県三郷市戸ヶ崎2193-1	Tel/Fax:048-956-2224
豊田 幸子(フレンズ)	〒489-0987 愛知県瀬戸市西山町1-60-20	Tel/Fax:0561-82-1498

発行人 編集人
東京都狛江市元和泉 二一七一一
高次脳機能障害を考えるサークルエコー
東京都世田谷区砦 六一二六一一 「定価は会費に含まれる」
特定非営利活動法人障害者団体定期刊行物協会 定価 百円